

小郡に、

絶滅危惧種「オニバス」が！

専門家にききました！

オニバスは、やや富栄養化したため池に生育する一年生の水草です。植物体全体に鋭いとげがあることから、「鬼蓮(オニバス)」と名付けられています。

オニバスは、水域の埋め立てや改修、管理放棄、水質汚濁の進行などにより各地で消滅しているため、福岡県では絶滅危惧ⅠB類(近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)に選定されています。

また、県内4市町(飯塚市、みやま市、遠賀町、みやこ町)で、天然記念物に指定されています。県内では20か所以上の自生記録がありますが、消滅または現状不明の場所も多く、正確な現存地点数は不明。その中で、100株を超えるオニバスが確認された大保池は、県内有数の自生地と言っていいでしょう。

平地に生育するオニバスは、開発や水質汚濁の影響を受けやすい植物です。今後、地域一体となった保全活動が行われ、地域のシンボルとして大保池のオニバスが生育し続けることを期待します。

須田隆一さん(福岡県保健環境研究所)



8月中旬、開放花が咲きました。

**オニバスって
どんな植物？**

分類
スイレン科オニバス属

生育地
やや濁った池や沼に生育します。かつては全国約300か所で自生していましたが、その多くが埋め立てや水質の悪化で消滅・減少しています。

希少性
環境省レッドリスト
：絶滅危惧Ⅱ類
福岡県
レッドデータブック
：絶滅危惧ⅠB類

2種類の花

閉鎖花
：つぼみのまま、花弁を開かず水中で成熟

開放花
：紫色の花弁で水面上に開花

※オニバスの花のほとんどは閉鎖花で、開放花を全くつけないこともあります



オニバスの1年	
春	発芽(写真a)
5月～6月	池の底の種子から、水中に針状の葉(写真b)、続いて矢尻形の葉を伸ばします。
7月	葉が円形に近づきます。
8～10月	葉が最大で直径1.5mに！(写真c) 花もこの時期に見られます。
10月下旬	果実が成熟します。
11月上旬	葉が徐々に枯れます。果実の中の種子(写真d)は池底に落ち、翌年以降の発芽を待ちます。

昨年9月、小郡市大保の大保池で、絶滅のおそれがある植物「オニバス」が見つかりました。

「オニバスがある」と市が連絡を受けたのは、福岡大附属大濠高等学校2年(当時)の廣瀬朋輝さん(小郡市八坂)。偶然池のそばを通りかかったときにオニバスに気付く、その希少性を知っていたため、市に一報をくれました。その後、オニバスは新聞やラジオにも取り上げられ、一躍話題になりました。

オニバスは、日本に自生する水草としては、最も大きな種です。種子には休眠性があるため、毎年発芽するわけではありません。最長で約55年後に発芽した記録も残っており、大保池のオニバスも、以前池底に落ちた種子が、数十年の眠りを経て発芽したと考えられます。

また、調査を進めるうち、大保池にはオニバスの他にも、豊かな生態系が広がっていることがわかりました。中には、オニバスのように、絶滅の危機にひんしている希少な生物もあります。小郡市の豊かな自然に、市内外から注目が集まっています。

絶滅の危険度

絶滅危惧ⅠA類から絶滅危惧Ⅱ類までが絶滅危惧種に区分され、上に行くほど絶滅の危険が高い生物

絶滅
野生絶滅
絶滅危惧ⅠA類
絶滅危惧ⅠB類
絶滅危惧Ⅱ類
準絶滅危惧

絶滅危惧種の分類

絶滅のおそれのある種を絶滅の危険度で分類した、レッドデータブックという本があります。種ごとの現状や減少理由などを公表することで、絶滅危惧種を守ることを目的としたものです。

なぜ減少しているの？
開発、土壌汚染、気候変動、外来種の繁殖など原因はさまざまですが、いずれも人間が大きな影響を与えている可能性があります。

そもそも絶滅危惧種って？
絶滅危惧種とは、数が極端に減少し、絶滅の危機にある生物のことです。過去100年で、地球上の種が絶滅するスピードが、約1,000倍に上がっているとされています。小郡市では、福岡県や専門家の助言のもと、絶滅危惧種をはじめとした自然環境の保護に取り組んでいます。

大保池で見つかった絶滅危惧種たち



ミナミメダカ

絶滅危惧Ⅱ類

市内に昔から生息するメダカ。特定外来種カダヤシの流入や、用水路のコンクリート化により減少している。

(写真提供：福岡県保健環境研究所)



コガタノゲンゴロウ

絶滅危惧Ⅱ類

池、水田や湿地に生息。主に死んだ魚や水生昆虫などを捕らえ、強力な顎でかじり取って食べる。

(写真提供：福岡県保健環境研究所)



ツクシオオガヤツリ

絶滅危惧ⅠB類

福岡城の濠で初めて発見されたため、「ツクシ」という名がついた。国内では数県でしか確認されていない。市内では、若山堤などでも確認されている。

大保池は農業用のため池としてだけでなく、以前はコイを養殖したり、子どもが泳いだりした、とても身近な池です。

池にはたくさんの生き物がいますが、この生態系を子どもたちに受け継いでいけるよう、大保区と大保営農組合とで協力していきます。



草場 學さん(大保区長)

大保池

西鉄大保駅から徒歩約10分

※現在、大保池周辺は、道路工事中です。道幅が狭く、仮設道路などがありますので、車での来場はご遠慮ください

※自然環境保護のため、柵内への立ち入りはご遠慮ください。また、安全に十分注意し、近隣住民に迷惑にならないよう配慮をお願いします



オニバスの一報をくれた
高校生は生物部！

廣瀬朋輝さん

福岡大附属大濠高等学校3年

初めて大保池でオニバスを見つけたのは、昨年7月。一緒にいた生物部の友人と2人で、小郡の生き物を観察しに行く途中でした。偶然通りかかった大保池に浮かぶ葉を見て、すぐに「オニバスだ」と気付きました。発見後、市役所に連絡しましたが、市役所の人が確認にきたときには、葉が消えていました。でも、スライム科の植物は時間を置いて葉が出てくると知っていたので、その後も大保池に足を運び、何度目かに出かけた9月18日、今度は群生しているところを発見することができました。

私は、物心ついたときから昆虫に関心があり、カブトムシを育てたり、昆虫観察会に参加したりするうちに、ますます惹かれるようになりました。オニバスのことを知ったのも、小学生のときに、自由研究でビオトープを作るため、水辺の植物を調べ始めたのがきっかけです。とても大きな葉をつけるので、印象に残っていました。

今でも休みの日には、山や川に出かけて自然観察をしています。また用水路など、一見自然が豊かには見えない場所にも、貝や魚が生息している場所があるので、自宅の周りなど身近な場所でも観察することもあります。小郡市には、田んぼや川、ため池などが多く、水辺の生物がたくさん見ることが出来ます。これからも、豊かな自然や生態系が受け継がれていくといいなと思います。

高校卒業後は大学に進学し、昆虫のことを研究したいです。また、将来は、環境や生物多様性の保全に携わることができたらと考えています。最近では、種の減少や絶滅が問題になっていますが、身近にいる生物のことを知ることが、守ることにつながります。地域ごとに特色ある環境を未来につなげていきたいです。

私たち大保営農組合は、会員16人で活動しており、主に大保区内の田畑につながる農業用水を管理しています。大保池でも、以前から、ごみ拾いや堤防の草刈り、池を囲むフェンスの設置、洪水対策のためのオーバーフローの改良などを行ってきました。

私が初めて大保池でオニバスを見かけたのは、一昨年の夏です。その年はまだ、浮葉の数は少しかけでしたが、普段見かけない植物なので気になっていました。昨年になって、インターネットなどで調べたところ、オニバスだとわかりました。しかし、絶滅危惧種に指定されるほど希少なもののだとは思いませんでした。

大保区の人たちに聞いたところ、実は以前から、大保池にはオニバスが生じていたということがわかりました。子どものころから大保区に住む80代の男性は、60年以上前に、大保区内の複数の場所でオニバスを見た記憶があるといいます。もしかしら、昔はもっと多くの場所でオニバスが見られたのかもしれない。現在、大保池では、周辺の道路の改修工事が行われています。完成後は、池のすぐそばを道路が通るので、水面のオニバスがよく見えるようになります。

動植物をこよなく愛し
大保池の環境を守る番人！



福田 健さん
大保営農組合 組合長

なります。大保池をたくさんの人に見てもらい、小郡を代表する観光地になればと思っています。

また、オニバスをはじめ、大保池の豊かな生態系は、大保区の宝物です。子どもたちにもその素晴らしさを伝え、大保区や小郡市を誇りに感じてもらうきっかけにしたいです。

オニバスは一年草なので、必ず毎年現れるとは限りません。来年で降も、立派な葉や花が見られることを楽しみにしながら、大保池の自然環境を守っていきます。